

Ⅱ 事業概要



奈良府札一貫文 5枚 日本 明治2年(1869) 12.2×3.6cm

1 展 観

(1) 企画展・巡回展

第95回企画展「器にみるアンデス世界—ペルー南部地域編—」

会期 2024年(令和6)4月17日(水)～6月3日(月)

会場 企画展示室・3階ロビー

後援 ペルー大使館、古代アメリカ学会、天理市、天理市教育委員会、歴史街道推進協議会

協力 山形大学ナスカ研究所、山形大学附属博物館

本展は、2021年に開催した第86回企画展「器にみるアンデス世界—ペルー北部地域編—」の続編であり、ペルー南部地域とボリビアにまたがって栄えた文化を対象として、土器や木器の真作と贋作を同時に展示した。これにより、中央アンデス地帯南部における古代の世界観に触れてもらい、ペルー南海岸を中心に、それらが現代社会において異なる脈絡で再生産されている様子を紹介した。また、山形大学ナスカ研究所と山形大学附属博物館の協力を得てパネル展示を行い、ナスカの地上絵に関する最新の研究成果と、同時進行で行われている保護活動の現状について紹介した。さらに企画展示室に隣接する3階ロビーには、山形大学ナスカ研究所と山形大学附属博物館から借用した、Google Earthを使用した映像「ナスカの地上絵と神殿をめぐる巡礼:巨大な地上絵の分布規則」を上映するコーナーと、ナスカ台地の航空写真を300分の1の縮尺で印刷したマットに乗って地上絵を見つけてもらう体験コーナー「地上絵を探せ!」を設けた。

また、2024年はペルー共和国がスペインからの独立を確立して200年の記念の年に当たることから、“ペルー独立確立200周年 2024”の記念事業の一つとしても本展を開催した。それに伴い、ペルー大使館より提供された、独立確立200周年記念映像の視聴コーナーを設けた。

会期中には、4月24日(水)に荒田恵学芸員が「インカってなに?」と題したトーク・サンコークンを実施した。また同日の午後には2階ホールに特設カフェを設置しペルー産コーヒーを1杯220円で提供し、参加者が多数集まる盛況なイベントとなった。さらに5月4日(土)には山形大学教授 坂井正人氏による「ナスカの地上絵と人工知能:新展開の現地調査をめぐって」と題した記念講演会を開催し、講演後も熱心な受講生による質問が絶えない盛況な講演会となった。これらにくわえて、4月22日(月)、5月20日(月)、6月3日(月)にギャラリートークを実施した。

本展は、天理大学や他大学の講義で活用される機会も多く、博物館学にくわえて、考古学、ラテンアメリカ社会文化、美術史、そして科学と現代を扱う一般教養の授業まで、多岐にわたる講義で活用され、延べ320名を超える大学生が見学に訪れた。なお会期中の総入館者数は2,477名であった。



チラシ

第96回企画展「布留遺跡の歴史—物部氏より前から後まで—」

会期 2024年(令和6)7月10日(水)～9月9日(月)

会場 企画展示室・3階ロビー

後援 天理市、歴史街道推進協議会

協力 天理市教育委員会、天理大学歴史文化学科

当館は、2022年度に天理市の市街地に約2km四方にわたって広がる集落遺跡である布留遺跡の、膨大な数の出土品と記録類を収蔵した。本展ではその出土品を活用して、旧石器時代から中世にいたる布留遺跡の長い歴史を概観する展覧会を開催した。布留遺跡は、古墳時代には古代氏族の物部氏が暮らした集落として一定の知名度があるため、副題と展示構成に「物部氏」を用いた。展示構成は「序章 布留遺跡の発見」、「物部氏の前」1. 旧石器・縄文時代、2. 弥生時代、「物部氏が暮らした頃」3. 古墳時代、「物部氏の後」4. 奈良時代以後という5部構成とした。

展示資料は、これまでに展示したことがある重要資料をはじめ、発掘調査報告書に掲載されているが未公開だった

出土品と未報告の出土品に、発掘調査の際に現場から切り取った重要遺構を加えた。さらに発掘調査中に撮影された遺構写真をパネルにして展示した。また、天理市教育委員会の協力を得て、近隣遺跡から出土した縄文時代の翡翠製の大珠と弥生土器を展示し、周辺の歴史を理解するための補助とした。天理大学歴史文化学科からは布留遺跡内の巨大前方後方墳である西山古墳の墳丘模型を借用し、展示室前ロビーにおいて展示した。

夏休みの時期であったので、展示室では小中学生向けに親しみやすいデザインで平易な文章で展示品を説明したパネルを設置し、宿題に活用できるワークシートを配布・配信した。

会期中の8月24日（土）に八尾市魅力創造部観光・文化財課の樋口めぐみ氏による「発掘調査からみた河内の物部氏—阿都の別業・渋河の家—」、9月9日（月）に当館特別顧問松田真一による「布留遺跡にみる縄文社会の特質」と題した、2回の記念講演会を開催した。また7月13日（土）には、藤原郁代学芸員がトーク・サンコーカン「布留遺跡の要点ベスト10」を実施した。会期中の総入館者数は12,468名であった。

さらに、天理中学校2年生が描いた展示品の絵画を、展覧会終了後の9月25日（水）～10月21日（月）に1階エントランスホールにおいて展示した。



チラシ

第97回企画展「墳墓のインテリアデザイン—墳墓観の変遷 漢から唐へ—」

会期 2025年(令和7)1月15日(水)～3月3日(月)

会場 企画展示室・3階ロビー

後援 天理市、天理市教育委員会、歴史街道推進協議会

本展は、「墳墓のインテリアデザイン」という切り口で、漢～唐時代の人々の墳墓観の変遷を概観したものである。古代中国大陆において墳墓の埋葬主体部は、死後の家・すみかとみなされるようになった。したがって、墳墓の主体部に使用された構築材上の装飾図像・紋様や、主体部各所に配置された多様な副葬品は、死者の家・屋敷のインテリアとしてデザインされたものであり、必要なインテリア用品だったととらえることが可能である。そこで、ある時代の人々が、墳墓を何のためにどうあるべきと考えどのようにデザインしたのかを示す「墳墓観」、また、建物内面の装飾や、屋内で日常使う家具・調度品などをさす「インテリア」をキーワードに、当館の多彩な収蔵資料を通じて、漢～唐時代の墓内の空間デザインを紐解こうという試みである。

本展の構成は、第一章では墓内の空間デザインの概説とともに具体的インテリア装飾である空心画像磚や実心画像磚を展示し、第二章では墳墓のインテリア用品の全体像を概説するとともに各種副葬品を機能・役割毎に9節に分けて並べた。9節とは、①墓を護るものたち、②墓主人たちの出行、③特殊な葬礼器、④各種容器類と被葬者の飲食・供献儀礼、⑤生活調度類、⑥食に関わる三大模型明器類（家畜家禽とその檻などの模型、農作物の加工・貯蔵関係模型、厨房関係模型）、⑦汚物関係の容器・施設模型、⑧教養や男女の嗜みに関わるものなど、⑨生活に豊かさ楽しみをもたらすもの（ゲーム・スポーツ競技・音楽・舞踊関係の俑類）である。

これらに更に序章と終章を加え、死者の棺が墓地に運ばれる様子と、死者と副葬品を墓に納めた後の地上での親族による儀礼の様子を、圓平人形（満洲・20世紀前半）によりジオラマ風に展示し、会場の入口と出口に配置した。

全体として、それぞれの時代の人々が、墳墓のインテリアに、何を期待し何を求めたのか、そしてその背景や理由にはどのような思考・思想・宗教があったのかを読み解く展覧会となっている。

関連イベントとしては、2月1日（土）に大阪市立東洋陶磁美術館 学芸課長代理 小林仁氏による記念講演会「中国陶俑の魅力」、1月23日（木）に江介也学芸員によるトーク・サンコーカン「墳墓のインテリアデザインを考える—漢～唐時代の墳墓観—」を開催した。会期中の総入館者数は2,220名であった。

巡回展 天理参考館・天理図書館創立90周年特別展

「大航海時代へ—マルコ・ポーロが開いた世界—」

会期 2024年(令和6)7月6日(土)～8月25日(日)

会場 仙台市博物館

主催 仙台市博物館、天理大学附属天理参考館、天理大学附属天理図書館

後援 河北新報社、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、産経新聞仙台支局、日本経済新聞仙台支局、仙台リビング新聞社、tbc 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、khh 東日本放送、エフエム仙台、ラジオ3 FM76.2 MHz

2020年に当館で開催した同特別展の巡回展。展示点数は223件(290点)。その中には本展のみで特別公開した、伊達政宗黒印状など「天理図書館所蔵伊達家文書・仙台キリシタン文書」19点が含まれる。

記念講演会として、7月13日(土)に天理大学教授 天野忠幸「倭寇・南蛮と戦国日本」、8月3日(土)に当館副館長 巽善信「モンゴル帝国とルネサンス—大航海時代のはじまり—」が、SMMA(仙台・宮城ミュージアムアライアンス)イベント(博物館×天文台)のスペシャルトークとして7月28日(日)に仙台市天文台学芸員 郷古由規氏「冒険者たちの星空を見てみよう」、同じくトワイライトサロンとして8月17日(土)に仙台市天文台名誉台長 土佐誠氏・仙台市博物館学芸員 黒田楓花氏「支倉常長の旅と星」が、それぞれ仙台市天文台を会場に開催された。また SMMA イベント(博物館×動物公園)のスペシャルトークとして8月7日(水)に仙台市八木山動物公園フジサキの杜飼育展示課 相澤里氏「飼育員による動物のおはなし～飼育員の出張授業：ラクダ編」も挙行されている。

(2) 天理ギャラリー展

第182回「歴鉄 日本最大の私鉄「近鉄」110年の軌跡」

会期 2024年(令和6)9月7日(土)～10月22日(火)Ⅰ期【大阪・奈良・伊勢への路】

10月26日(土)～12月7日(土)Ⅱ期【日本最大の私鉄へ】

会場 東京・天理ギャラリー

後援 近畿日本鉄道株式会社

近畿日本鉄道(近鉄)の母体である大阪電気軌道(大軌)が、創業路線である奈良線を大正3(1914)年に開業し110年を迎えた。幾多の合併・再編を経て、大阪府・奈良県・京都府・三重県・愛知県に路線を持つ、日本最大規模の私鉄となった近鉄は、都市間交通だけではなく、名所旧跡への重要な交通手段として発展してきた。本展では、乗車券や関連する紙資料を中心に、大私鉄の歴史を紐解き、地域住民の足としてはもちろん、広範囲のネットワークとして果たしてきた役割について紹介するとともに、新規路線開業やM&Aがダイナミックに行われていた頃に光を当てることで、日本最大の私鉄黎明期における脈動を感じていただくことを主眼とした。

会期を2期に分け、まず第Ⅰ期では、大軌及びその直営子会社が敷設した路線を取り上げ、創業路線である奈良線(都市間輸送、観光地奈良)、橿原線(橿原神宮)、そして三重県に至る大阪線・山田線(伊勢神宮)の資料から、現代的な都市間交通と、伊勢神宮に代表される観光地への輸送を念頭に置いたエリア拡大について展示した。第Ⅱ期では、大軌グループが買収統合した会社の路線を取り上げ、大阪鉄道(南大阪線)、伊勢電気鉄道(名古屋線)、奈良電気鉄道(京都線)など、近鉄が日本最大の私鉄へと規模拡大した大きな要因であるM&Aの経緯を紹介し、経営陣の思惑や時代の流れに翻弄された各路線の歴史をたどった。

10月5日(土)奈良大学教授 三木理史氏による記念講演会「近鉄電車の110年—大軌を中心に」を開催し、路線延伸の過程を特急網との関係からご講演いただいた(受講者15名)。また、ギャラリートークと硬券印刷実演(59名参加)、そしてオリジナル硬券切符製作ワークショップ(29名参加)を計6日間開催しご好評いただいた。総入場者数は901名であった。



ポスター

(3) その他の展覧会

天理図書館主催の展覧会に協力した。

天理図書館開館94周年記念展

「芭蕉の根源—北村季吟生誕四百年によせて—」

会期 2024年(令和6)10月23日(水)～12月2日(月)

会場 企画展示室・3階ロビー

主催 天理大学附属天理図書館

後援 奈良県, 天理市, 天理市教育委員会, 天理市観光協会, 歴史街道推進協議会

協力 天理大学附属天理参考館

2 調査研究

(1) 海外民族室

- 令和6年度科学研究費助成事業（基礎研究（B））の助成を受け、「日本における上海土山湾工房作品の流布と影響に関する調査」（研究代表者：郭南燕）の一環として、当館が所蔵する上海の黄楊製風俗人形108点の調査・研究、および研究発表を行った。
- 奈良国立博物館開館130年・天理大学創立100周年記念特別展「世界探検の旅—美と驚異の遺産—」開催に向けて、館蔵のアンデスの金属製品の蛍光X線材質分析および類例調査を実施した。なお蛍光X線材質分析は奈良教育大学教授の青木智史氏が行った。
- 奈良国立博物館開館130年・天理大学創立100周年記念特別展「世界探検の旅—美と驚異の遺産—」開催に向けて、天理大学非常勤講師の富岡美智氏、人形遣いのナナン・アナント・ウィチャクソノ氏とローフィット・イブラヒム氏とともに、インドネシアのジャワ島の影絵人形および仮面の事前調査を実施した。
- 天理大学創立100周年記念・第98回企画展「絆 —ヒトとヒトをつなぐモノ—」開催に向けて、モンゴルの家系図に関する資料調査を行った。
- 各担当地域収蔵資料のデータベースの照合作業を進めている。
- 台湾先住民の再現家屋（天理市杣之内町所在）の保守・管理および除草剤散布と点検を行った。
- 収蔵庫内の空気環境調査を実施した。

(2) 日本民俗室

- 過去の受贈資料の整理作業を継続して行っている。
- 収蔵資料と登録データの照合作業を継続して行っている。
- 蹴鞠に関する調査を継続して行った。
- 人形に関する調査を継続して行った。
- 紙本資料の収納保管に使用している酸性マット紙から、中性マット紙へ取り替える作業を継続して行っている。

(3) 交通文化室

- 乗車券印刷機及び断裁機に関する調査及び、機械メンテナンスを行った。
- 山本不二男と、そのコレクションについて調査研究を行った。
- 関西各都市の鉄道資料について調査研究を行った。
- 近現代鉄道資料のデータベース作成を継続中。
- 記念乗車券のデータベース作成を継続中。

(4) 考古美術室

- 収蔵資料と登録データの照合作業を継続して行っている。
- 展示室内および収蔵庫内の空気環境調査を実施した。
- 布留遺跡と周辺遺跡の発掘調査に関する記録と出土品を再整理、調査した。
- 1960年代に当館が発掘調査を行った古墳に関して調査と整理を行った。

- 熨人（熨斗の挿柄台）の調査研究を実施した。
- 館蔵の俑・模型明器類に関する通史的かつ総合的研究のための調査を行っている。
- 館蔵の埴に関する総合的研究のための調査を行っている。
- 館蔵のテル・ゼロール出土資料に関する調査研究を実施した。
- 館蔵の古代エジプト関連資料に関する調査を行っている。

3 資料収集・保存

(1) 収蔵資料概要

(i) 海外民族資料

朝鮮半島	1,234点	南アジア	1,856点
中国（漢族関係）	10,355点	中央アジア	1,735点
台湾（先住民関係）	1,816点	北アジア	121点
東南アジア	3,896点	西アジア	666点
メラネシア	2,090点	アフリカ	2,323点
ミクロネシア	110点	アメリカス	4,566点
ポリネシア	383点	ヨーロッパ	826点
オーストラリア	87点	その他	421点
総点数			32,485点

(ii) 日本民俗資料

日本民俗資料	30,915点
--------	---------

(iii) 交通文化資料

交通文化資料	※
※整理中	

(iv) 考古美術資料

日本	20,902件	東南アジア	387件
朝鮮半島	1,617件	オリエント	4,077件
中国	3,096件	その他	4件
総件数			30,083件

(2) 新収蔵資料

(i) 日本民俗資料

今年度の新収資料点数は、手回し洗濯機1点（奈良）。この球体の洗濯機は昭和32年以降に発売されて、一時期出回ったものの昭和30年代末には姿を消した。洗濯物を投入した後、洗剤を溶かした熱湯を注いでハンドルを回して洗う。脱水はできないため、取り出して手で絞る必要がある。コックを回して蓋を開けると急な減圧でボンと音を出すので、「ボン洗濯機」とも呼ばれた。最初に発売したのは群馬県高崎市の林製作所で、「カモメ洗濯器」という製品名。本品が収納されていたダンボール箱からその当時の製品だったことが判明した。盥から電気洗濯機に至る過渡期を示す有用な資料といえる。



手回し洗濯機（奈良）昭和32年 全高38.0cm

(ii) 交通文化資料

本年度の新収蔵資料は134件で、その内容は乗車券類を中心に、時刻表、パンフレット、観光案内、鉄道記念品、各種鉄道部品など多岐にわたっている。主なものとして、蓄電式電気バスへの移行のため運行終了となった日本最後のトロリーバス記念券、ハピラインふくい開業記念1日フリーきっぷ、東海道新幹線開業60周年を記念した駅弁の容器などがある。



ラストラン記念カード・乗車券 (写真上・中央)
2024年6月6日 立山トンネルトロリーバス
記念カード 縦6.3cm 乗車券 縦6.1cm

開業記念1日フリーきっぷ (写真下)
2024年3月16日 ハピラインふくい 縦3.0cm



駅弁容器「東海道新幹線弁当60周年記念ver.」
2024年10月1日以降 J R東海リテイリング・プラス
縦20.4cm

(iii) 考古美術資料

本年度の新収蔵資料は中国資料1点で、個人より寄贈いただいたものである。胴部にアラビア文字をあしらった銅炉で、器形の特徴から鬲式炉とも称される。明の「正徳」(1506-1521)の年款があるが、清代の模造の可能性も考えられる。状態は非常に良好である。



銅炉 (アラビア文字鬲式炉)

4 普及活動

(1) 入館者数 24,459名

4月	939名	7月	7,023名	10月	1,178名	1月	879名
5月	1,665名	8月	4,869名	11月	1,873名	2月	1,354名
6月	1,402名	9月	1,607名	12月	617名	3月	1,053名

(2) トーク・サンコーカン

(公開講演会) / 午後1時30分～3時 / 会場：研修室 / 講師：当館学芸員

回数	開催日	タイトル	講師	受講者数
第309回	4月24日(水)	インカってなに？	荒田 恵	38名
第310回	6月21日(金)	ニューギニア島、アスマット地方の儀礼と木彫造形—木から生まれ木に還る人々—	早坂文吉	9名
第311回	7月13日(土)	布留遺跡の要点ベスト10	藤原郁代	47名
第312回	9月27日(金)	近畿日本鉄道110年の路線形成—合併会社を中心に—	乾 誠二	17名
第313回	10月11日(金)	中国少数民族の衣装と文化—貴州省・広西壮族自治区を中心に—	中尾徳仁	32名
第314回	11月22日(金)	シンガポールの詳しい話—歴史・文化・観光—	梅谷昭範	21名
第315回	1月23日(木)	墳墓のインテリアデザインを考える—漢～唐時代の墳墓観—	江 介也	35名
第316回	3月14日(金)	万国博覧会の歴史	幡鎌真理	22名

(3) ワークショップ、他

(i) 展覧会関連

内 容	ペルー産コーヒー特設カフェ		
開催日	4月24日(水)		
時 間	午後1時～3時30分	会 場	2階ホール
参加者数	44名	担 当	荒田 恵
		その他	第95回企画展関連イベント
内 容	ギャラリートークとキップイベント(硬券切符印刷実演、オリジナル硬券切符製作)		
開催日	9月7日(土)、10月4日(金)、10月22日(火)、10月26日(土)、11月9日(土)、12月7日(土)		
時 間	午後1時30分～3時15分	会 場	天理ギャラリー
参加者数	のべ88名	担 当	乾 誠二
		その他	第182回天理ギャラリー展関連イベント

(ii) 年間

ワーク 内容	バリガムラン体験講座		クラシックギター講座 ギターで音楽の世界を奏でよう！
	[初心者コース] 第43期・第44期	[経験者コース] 第43期・第44期	[一般コース] 第22期・第23期
講 師	稲葉さやか氏 杉本めぐみ氏	稲葉さやか氏 杉本めぐみ氏	乾 誠二 中尾徳仁
受講料	各期2,000円	各期2,000円	各期9回3,600円
開催曜日	日曜日	日曜日	水曜日
開催日	第43期 4/21, 5/12, 6/9, 7/14, 8/18, 9/7 第44期 10/13, 11/10, 12/8, 1/12, 2/9, 3/9	第43期 4/21, 5/12, 6/9, 7/14, 8/18, 9/7 第44期 10/13, 11/10, 12/8, 1/12, 2/9, 3/9	第22期 4/17, 5/8, 5/29, 6/25, 7/3, 7/30, 8/7, 8/28, 9/11 第23期 10/30, 11/13, 11/27, 1/8, 1/22, 1/29, 2/5, 2/19, 3/5
時 間	午前10時～午後0時	午後0時～午後3時	午後2時00分～午後3時30分
参加者数	第43期のべ21名	第43期のべ21名	第22期のべ62名
	第44期のべ22名	第44期のべ26名	第23期のべ52名
会 場	研修室		研修室
担 当	早坂文吉		乾 誠二, 中尾徳仁
その他	ワークショップ バリガムラン体験講座・クラシックギター講座合同成果発表会 「ガムラン・クラシックギターコンサート—音色で巡る世界の旅10—」 ／日時：3月2日(日) 午後1時～3時／会場：エントランスホール／参加者数48名		

(4) マンデートーク

／各月曜日／①午後0時30分～0時50分②午後1時～1時20分／会場：各展示室／講師：当館学芸員

回数	開催日	タイトル	講師	参加者数
第1回	4月8日	①北の大地が育む手技—アイヌ— ②アイヌ資料にみる伝統文化と精神世界	梅谷昭範	11名
第2回	4月22日	①ペルー独立確立200周年 2024 第95回企画展「器にみるアンデス世界—ペルー南部地域編—」 ②パラカス文化とナスカ文化の土器	荒田 恵	20名
第3回	5月13日	①祖霊と共に生きる—台湾の先住民— ②台湾先住民パイワンの「三種の神器」	早坂文吉	10名
第4回	5月20日	①ペルー独立確立200周年 2024 第95回企画展「器にみるアンデス世界—ペルー南部地域編—」 ②ティワナク文化とインカ帝国の儀礼	荒田 恵	24名
第5回	6月3日	①ペルー独立確立200周年 2024 第95回企画展「器にみるアンデス世界—ペルー南部地域編—」 ②ペルー南海岸の贋作づくり	荒田 恵	27名
第6回	6月17日	①漢代の陶製明器 ②漢代のひとがた	江 介也	11名
第7回	7月8日	①日本・民家ステージ ②夏の室礼	幡鎌真理	8名
第8回	7月22日	①第96回企画展「布留遺跡の歴史—物部氏より前から後まで—」 ②布留遺跡の木製刀装具	藤原郁代	48名
第9回	9月2日	①第96回企画展「布留遺跡の歴史—物部氏より前から後まで—」 ②布留遺跡の木製刀装具	藤原郁代	34名
第10回	9月9日	①くらしの中の交通 ②錦絵にみる交通の変遷	乾 誠二	20名
第11回	10月7日	①「中国の玩具」コーナー ②中国貴州省の少数民族「ミャオ族」の衣装	中尾徳仁	18名
第12回	10月21日	①オルメカ石頭像サン・ロレンソ1号（レプリカ） ②なぜオルメカ石頭像のレプリカが天理参考館に存在するのか	梅谷昭範	8名
第13回	11月11日	①ヒンズー社会の原風景 ②「ラーマーヤナ」と影絵劇人形	早坂文吉	25名
第14回	11月18日	①庶民のくらし むかしの道具—作物をつくる— ②「大和豊年米食わず」	幡鎌真理	22名
第15回	12月9日	①考古 日本の展示 ②東大寺山古墳の円筒埴輪	藤原郁代	19名
第16回	12月16日	①くらしの中の交通 ②東海道新幹線開業60年	乾 誠二	中止
第17回	1月20日	①1930年に上海市徐家匯土山湾で購入された黄楊製風俗人形 ②願い事をかなえる台湾の民間版画「紙馬」について	中尾徳仁	8名
第18回	1月27日	①墓内のインテリア装飾を考える—漢代— ②漢墓に使用された空心磚のつくりと図像	江 介也	18名
第19回	2月3日	①移民と伝道—日本から南北アメリカへ— 前編 ②ブラジル日系人社会と日本の絆	梅谷昭範	8名
第20回	2月17日	①墓内のインテリア配置を考える ②ここになければならないもの	江 介也	28名
第21回	3月3日	①祖霊と共に生きる—台湾の先住民— ②パイワン族の伝統的住居について	早坂文吉	11名
第22回	3月17日	①世界の考古美術 日本 縄文時代 骨角器コーナー ②縄文時代の漁労活動	松田真一	12名

(5) ミュージアムコンサート「参考館メロディュー」

／各土曜日／午後0時10分～0時50分／会場：エントランスホール／共催：天理教音楽研究会

回数	開催日	タイトル	参加者数
第150回	4月13日	One step further ―志― 感謝の心を込めて	52名
第151回	5月11日	昼すぎプラスアンサンブル	53名
第152回	6月8日	天理が誇る若き弦楽の仲間が大集結！ Vol.8	227名
第153回	7月6日	音楽の旅～モーツァルトからラヴェルまで～	21名
第154回	11月9日	秋に届けるコンサート	52名
第155回	12月14日	SKB16（シックスティーン）お箏ってええんやで？ ～個性をそえて～	140名
第156回	1月11日	天理高校第二部吹奏楽部によるソロとアンサンブルの調べ	67名
第157回	2月8日	Let's enjoy the Ensemble ♪～おちばで学ばせていただいている感謝の心を込めて～	116名
第158回	3月1日	室内楽の響き	59名

(6) その他のイベント 天理教こどもおちばがえり 謎解き博物館「サン・ロレンソ1号君からのSOS」

／開催期間：7月27日（土）～8月4日（日）／会場：各常設展示室・2階ホール・地下1階ロビー

／参加者数：8,980名



第95回企画展関連イベント
パルー産コーヒー特設カフェ



天理教こどもおちばがえり
謎解き博物館「サン・ロレンソ1号君からのSOS」



第8回マンドートーク
「第96回企画展 布留遺跡の歴史―物部氏より前から後まで―」



第12回マンドートーク
「オルメカ石頭像サン・ロレンソ1号（レプリカ）」

天理参考館報 第38号

- ◆ 発行日 2025年(令和7)10月26日
- ◆ 編集 天理大学附属天理参考館
〒632-8540
奈良県天理市守目堂町250番地
T E L 0743-63-8414
F A X 0743-63-7721
U R L <https://www.sankokan.jp/>
- ◆ 発行 (学)天理大学出版部
- ◆ 印刷 橋本印刷株式会社
〒639-2155
奈良県葛城市竹内365番地 1
T E L 0745-48-2301

(編集委員 幡鎌真理・梅谷昭範・江 介也)
山口真理子・松永理仁

TENRI SANKOKANPO
Bulletin of Tenri University Sankokan Museum
NUMBER 38 OCTOBER 26, 2025

Editor

TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM
250 Morimedo, Tenri, Nara 632-8540
I S S N 0 9 1 6 - 1 1 7 1

Bulletin of Tenri University Sankokan Museum

38 CONTENTS

I . Articles and Research Notes

A Study of an Ancient Egyptian Funerary Stela in Tenri Sankokan :

through Investigation of the Inscriptions Hiroo KANSHA 5

Ancient Irons of Mainland China (IV) :

from Simplification to Establishment of New Type, during the Eastern Jin and
the Southern Dynasties Yoshimata GOH 25

Excavation Report of *Shikinori-Ura* Tomb Ikuyo FUJIWARA 35

Basic Research on Metal Objects of the Incas in Tenri Sankokan :

Investigation of the Similar Cases and X-Ray Fluorescence Analysis
..... Megumi ARATA & Satoshi AOKI 45

II . Project Outline 65

TENRI NARA JAPAN

2024.4~2025.3